

2024（令和6）年10月 30日

「相対的场所表現と方向マーカーに関する通言語的一般性」

発表者：水野庄吾（Leipzig University & 京都大学 博士課程）

本発表では、ある参照物に対して相対的な位置関係を表す相対的场所表現（例、前後関係、横関係、上下関係）とそれらの動的な関係性を示す方向マーカー（例、～から、～へ）に関して、「相対的场所表現は方向マーカーよりも参照物に対して強い統語的結び付きを示す」という通言語一般性が確認されることを報告した。またこの通言語的一般性は文法化による *source-oriented explanation* (Cristofaro 2019; 2021) で説明され得るということを示した。

先行研究において、側置詞と格標示を共に持つ言語では、側置詞が相対的场所を格標示が方向を表すという普遍性があることが知られている (Lestrade et al. 2011)。この普遍性は確かにもっともらしいものであると考えられるが、全ての人類言語が側置詞と格標示を共に持つわけでない以上、この普遍性は厳密な意味での通言語的なものであるとは言えない。そこで本研究では、この普遍性を出発点に、相対的场所、方向をそれぞれ機能的に定義することで、上述したように厳密な意味での通言語的な一般性を得たものである。Lestrade et al. (2011) は、彼らの普遍性を構成性の観点から説明しているが、この構成性による説明は彼らが扱っていない相対的场所と方向を共に表す手段（＝側置詞と格標示を用いる以外の手段）を説明することができない。そこで、本発表では、上述した一般性を説明する要因として、文法化現象による通時的な説明を提案した。相対的场所表現は、広く名詞から側置詞へ文法化が進む現象として知られているが、それに対して方向マーカーは動詞から文法化する例として広く知られている。つまり、相対的场所表現は、参照物との所有－非所有の関係を示した名詞から派生しているため、動詞から派生した方向マーカーより参照物との結び付きが強いと考えることができる。